



子どもがつくる運動会

校長 田村 稔

赤泊小学校は理想とする教育像として次のものを掲げています。

【理想とする教育像】

子どもがつくる学び 子どもがつくる学校

先行き不透明なVUCAの時代を生き抜くには、主体的にものごとを考え課題解決する力、ひいては持続可能な社会の創り手としての力が必要とされます。そのためには、学習等の諸活動に対し「先生がこうしろと言うから」とか「友だちがみんなやっているから」といった受け身ではなく、「この学習活動は自分のものである。自分がプロデュースするのだ」という主体性をもって取り組んでもらいたいという願いがあります。言い換えるならば「学びのオーナーシップ」ということになります。この思想を具現化するために掲げたのが「子どもがつくる学び 子どもがつくる学校」というスローガンであり、具体的な方策がp 4 cなのです。



さて、これを踏まえると、運動会は「子どもがつくる運動会」を目指すということになります。では実際はどうだったのでしょうか。

まず、高学年児童が「どんな運動会にしたいのか」p 4 cで侃々諤々に話し合います。議論が進むにつれ、論点は「競技の部の成績を得点化すべきか、否か」に絞られていきました。「得点化して赤白で競うことで、一生懸命になれるし、がんばろうって気持ちになる」「得点化しないと盛り上がらない」などの意見が出される一方で、「走るのが苦手な人は、いい得点を取れないと悲しくなる」「勝ち負けを決めないスポーツフェスティバルのような感じも楽しいと思う」などの意見も出されました。

また、興味走は子どもたちのアイデアを生かしたものも考案されました。低学年の子どもたちでさえ、例えば「大玉転がしで勝つにはどうしたらいいか」についてp 4 cで考え合っていました。

さらに、応援団の子どもたちが集まって何度も話し合いを重ねて、応援のダンスを考えたり、下級生に分かりやすく教える方法を工夫したりする姿も見られました。どのように練習をするのか、あるいは指導するののかについても考えるなど、まさに子どもが中心になって自分たちで応援を作り上げたのです。

(裏面に続く)



マーチングバンドの演奏練習でも、練習後には子どもたちがよりよい演奏になるようミーティングをしました。スローガンも子どもたちが考え、子どもたちが決め、子どもたちが掲示物を作りました。このほか様々な場面で子どもたちが理想の教育像を体現している様子が見られたのです。

数週間にわたる運動会の練習・準備期間の子どもたちの奮闘ぶりは目を見張るものがありました。そこには「自分が勝てばいいのではなく、みんなが協力できて、みんなが楽しめる運動会にしたい」という思いがあったのだらうと思います。後にp4cで振り返る際に、2年生で「自分たちもがんばったけれど、相手の組のみんなもがんばったよね」という声が聞かれたのは、その証左なのでしょう。

当日は充実した運動会となりました。運動会で子どもたちが獲得したものを、今後の教育活動に生かすことができるようがんばります。ご家庭の皆様など、この間応援して下さった方々に感謝申し上げます。



6月の予定

1	木	知能テスト(2,4年) 委員会④
2	金	ALT 耳鼻科検診 学習指導改善調査
3	土	
4	日	
5	月	ALT ノーテレビノーゲームデー
6	火	
7	水	6年給食後放課
8	木	修学旅行(1日目)
9	金	修学旅行(2日目)
10	土	
11	日	
12	月	
13	火	
14	水	体力テスト
15	木	クラブ活動, 集金日

16	金	ALTによる指導
17	土	
18	日	
19	月	心の健康チェック~23日(金)
20	火	ふれあいタイム
21	水	読み聞かせ(昼休み)
22	木	委員会⑤
23	金	ALTによる指導
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	生活目標講話
28	水	全校VS活動
29	木	
30	金	ALTによる指導

赤泊小学校ホームページをどうぞ御覧ください。



